

巻頭言

サステイナブル社会構築のための水素の役割

一般社団法人水素エネルギー協会 会長
東京農工大学
教授 亀山 秀雄



本年5月の理事会で会長を仰せつかりました。会員の皆様に何かお役にたてることをしたいと思っておりますので、これからの HESS の活動にご協力のほどお願い申し上げます。

HESS のホームページの歴史のところを見ていただくとお分かりのように、本協会は 1973 年に設立されました。設立趣意に述べられている当時の社会状況と比べると、現在の状況は、エネルギーやライフスタイルに対する価値観の点でだいぶ変わってきております。しかし、「理想的なクリーンエネルギーシステム」を求める姿勢や「水素エネルギーシステムに適合した工学や工業の学理と技術についての研究をはかるとともに、これらの重要性について一般の認識を深めつつ、各界に問題解決についての協力を強く訴えたい」という思いは同じです。

さて、来年 2013 年に創設 40 周年の不惑の歳を迎えるにあたり、HESS としてのこの先 10 年のビジョンを示す作業を始めたいと思います。ビジョン作成の目的は、今までの HESS の活動の記録とそれを踏まえての 10 年後の 50 周年記念に向けてのアクションプランを作成することです。10 年後に HESS が、水素エネルギーのプラットフォームを提供する学術団体として社会的に重要な役割を持つようになるためには、どのように会員とともに活動していくかのシナリオをお見せできたらと思います。

これからの研究活動は、第 4 期科学技術基本計画の中で国が掲げる「将来にわたる持続的な成長と社会の発展の実現」を行うための施策の一つに示されている「科学技術イノベーションに向けたシステム改革」と関連する活動になっていくと思います。それにより、他国と比べて資源不足である日本が、人材とサイエンスと心の資源を活用して、サステイナブルな社会を構築する技術とシステムを生み出していくことが日本のサステイナビリティになると思います。どのような社会がサステイナブルかも議論する必要がありますが、そのありたい姿において水素がどのような役割を果たすのかを、バックキャスト的に考え、アクションプランを検討して行きたいと思います。その成果が、次の第 5 期科学技術基本計画に反映されることが、我々の願いです。それが、「理想的なクリーンエネルギーシステム」を目指す我々のミッションと思います。

イノベーションはホリスティック（総体的）なものである。このことは、2004 年に出された「Innovate America 2004」の報告書に記載されている言葉です。筆者も、以前からホリスティック工学について研究していましたが、この報告書でずばりと指摘された気がします。ホリスティックは、総体的という表現の中で、「関わり」を重視しています。生きとし生けるあらゆるものは、関わりの中で存在し、全体を構成しているという考えです。部品の寄せ集めでは、全体としての働きは表現しつくせない、そこに部分どうしの関わりがあって初めて全体としての機能が発揮できます。東日本大震災の復興活動の中で、「絆」という言葉の重要性が指摘されているが、まさにホリスティックなイノベーション活動によって、震災復興が成し遂げられると思います。同報告書では、さらにイノベーションエコシステムの構築が必要であると述べており、生態系と関連していることも興味深いです。

水素エネルギー協会が、水素およびそのエネルギー利用に係る個人、組織、社会、世界が参加できる水素によるイノベーションエコシステム構築に必要なプラットフォームを提供する社会に役立つ学会となることを祈念しています。会員諸兄のより一層のご協力をお願い致します。